

テーマ3 子どもの権利条例をもっと生かす工夫

札幌市は、子どもが幸せに過ごすまちを目指し「子どもの最善の利益を実現するための権利条例(子どもの権利条例)」(34ページ参照)をつくり、子どもの意見をまちづくりに生かす「子ども議会」などの取り組みを行ったり、いじめなどで苦しんでいる子どもを救うために「子どもアシストセンター」で相談にのったりしています。

しかし、子どもの権利条例のことや、子どもアシストセンターのことを知らない子どもも、まだまだたくさんいます。

■ 特に考えてほしいポイント

子どもの権利条例をもっと生かして、子どもが幸せに過ごすまちを目指すために、子どもの権利の内容や子どもアシストセンターのことを多くの子どもに知ってもらうには、どうすればいいでしょうか。

Cグループは、「テーマ3 子どもの権利条例をもっと生かす工夫」について話し合いました。

企画提案書のタイトルは、「子ども」や「からかう」などの意味を持つ「KID」という英単語を用い、「子どもだと思ってばかりにせず、きちんと意見をいわせてほしい」という意味を込め、「NOT KID」と名付けてくれました。

また、子どもの権利が尊重される環境づくりに大切なのは、まず、子どもたちが子どもの権利とは何かを知ること、さらに、子どもが意見を言える機会を設けることだという意見が多く出ました。

札幌市はこれまでも、様々な施策により、子どもの権利が尊重される環境づくりを進めてきました。また、子どもの権利条例の制定や子どもアシストセンターの設置、さらには、これらの広報パンフレットの作成など多くの場面で子どもの意見を聞く機会を設け、子どもの権利保障に向けた施策に、子どもの声を適切に反映させてきました。

今後も、企画提案書にある、「子どもの権利を知ってもらうこと」、「子どもが意見を言える場所を増やすこと」に努めながら、より一層子どもの権利が尊重される環境づくりに向けて、基本目標1ー基本施策1「子どもの健やかな育ちを支援する環境の充実」に取り組んでいきます。



企画提案書

NOT KID

提案趣旨

- ・子どもの権利条例を知ってもらう方法

Why?

- ・子どもの権利条例や子どもアシストセンターのことを知らない子どもが多いから。
- ・パンフレット等を見ずにすぐ捨ててしまうから。
- ・子どもの幸せを実現するために。

企画の概要

幸せとは・・・

学校

- ・いじめのない学校
- ・広くて遊びやすいグラウンド

家庭

- ・1人の時間
- ・ヘルパー等がほしい

地域

- ・近所の交流

(例)

祭, 花火大会, フリーマーケット等

知ってもらうための工夫

- ・授業でビデオを見る,
- ・目につく所にポスターをはる。

子どもが意見をいえるための工夫

- ・子どもだけの会議
- ・公共的な場所へ目安箱の設置

大人へのメッセージ

子どもの意見を

決めつけないでほしい。

成果目標

- ・意見が言える場所がふえる。
- ・子どもの権利条例をみんなが知ってくれる。
- ・暮らしやすい札幌。

最終目標

- ・みんなが幸せになれたらいい。

テーマ4 ワーク・ライフ・バランスの推進

働きながら子育てできる社会(子どもを生み育てやすい環境)を実現するためには、社会全体でワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に取り組むことが重要です。
しかし、社会全体としてのワーク・ライフ・バランスへの取り組みは、まだ充分とはいえません。

■ 特に考えてほしいポイント

より多くの企業がワーク・ライフ・バランスに取り組んでくれるようにするために、札幌市はどのようなことをすればいいでしょうか。

Dグループは、「テーマ4 ワーク・ライフ・バランスの推進」について話し合いました。

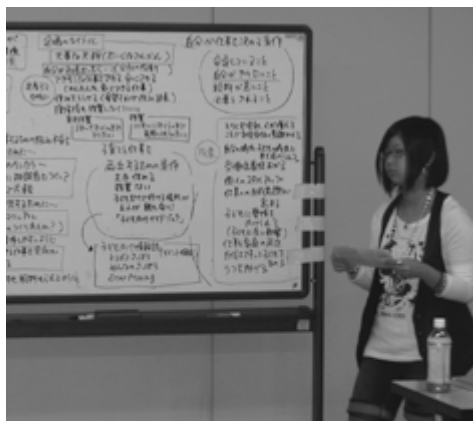
4つのテーマの中では最も難しく、また、他の3つのテーマと異なり、子どもが直接的に体験している内容ではありませんが、札幌市が現在力を入れている基本目標3ー基本施策1「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の事業を進めるうえで、子どもの視点を取り入れるため、子どもたちに意見交換をしてもらいました。

話し合いに入る前には、言葉の意味やワーク・ライフ・バランスの現状などについて、どのテーマよりも時間をかけて学習しました。また、年齢の低い子は「子どもの視点」から、高校生など年齢の高い子は「自分が就職したとき」の視点、さらには、「自分が企業の経営者だった場合」など、様々な視点からワーク・ライフ・バランスについて考えてくれました。

ワーク・ライフ・バランスについても、環境問題と同様、取り組む会社や人が増えることで、社会全体の意識が変わると考えられるため、企業の経営者などを対象としたセミナーを実施し、ワーク・ライフ・バランスの大切さや効果について周知を図っていくことが重要だとの意見が多く出ました。また、企業側への周知だけではなく、育児休業などを取得する側の不安や悩みの解消が必要であるとの意見も出ました。

なお、企画提案書のタイトルは、仕事と家庭をうまく両立させ、互いに好影響を与え合えるような社会になってほしいという願いを込めて「大事なてんびん」と名付けてくれました。

経営者に向けたセミナーについては、ワーク・ライフ・バランス推進事業(事業番号3-1-1)の中で実施していくとともに、この企画提案を参考にしながら、事業内容の充実を図っていきます。



企画提案書

大事なてんびん

提案趣旨

子供

親の労働時間長い。

→子供と話す時間が少ない。

子供のコミュニケーション能力に
影響がある。

(人間関係がうまくいかなくなる。)

大人

仕事をしている女性が子供を
生みづらい環境。

男性は仕事、という価値観。
女性は家庭、
変わってきている。

企画の概要

○子供と話せるきっかけになる
グッズやパンフレットを会社が配る。

○社長を集めてセミナーをする。
ワークライフバランスの大切さを伝える。
(育児休業をとると同様に追いこされる
不安など)

○休んでいる間に資格がとれるようなしくみ
(カウンセラーの資格など)

○ワークライフバランスをとれるように目的意識
を持って仕事にとりくめるような情報提供
の場所・方法。

育児休業でも
給料アリに。

○仕事への意欲を持ち続けられるよう
に、母親が育児をはなれて自分の
時間を持つようなイベント・セミナー

会社に復帰するための不安、悩みを
解消するために...

○会社にはカウンセラー・札幌市に相談
窓口をつくって会社で広報する。

父親が育児をするために...

○子育てのマニュアル(ミルクの作り方など)
母親が復帰しやすいように...

家でできる仕事を会社が提供する。

成果目標

○人が増えることで社会全体の意識がかわる。
取りくむ会社や

○自分の時間、子供の時間に目を向けられるようになる。

○労働生産性が上がる。

○個人のスキルアップ。

仕事への目的意識が高まるようになる。

○子供に愛情を向けられる。(子供にいい影響)

○仕事と家庭の両立ができる。

○自信を持って子供を生める。うつを防げる。